

子どもたちには夢があります。未来があります。可能性があります。

私たちの大切な宝である子どもたちが、自らの力で輝き、地域や社会、未来を照らす光となるように、奈良市ではさまざまな教育を行っています。

奈良市教育だより「きらめき☆奈良」では、奈良市の教育を紹介します。



iPS細胞



オープンラボで実験を行う様子



iPS細胞研究所 研究棟



(写真提供：京都大学 iPS 細胞研究所)

山中伸弥教授から奈良市の子どもたちへメッセージ

「V(ビジョン)&W(ワーク)」

これは、私がアメリカのグラッドストーン研究所に留学した際、当時の所長だったロバート・メーリー先生からいただいた言葉です。メーリー先生は、「研究者として成功する秘訣は、VWだ。人生にとっても大切なのはVWだ。」と言いました。

VWとは、先生の愛車だったフォルクスワーゲンのことではありません。Vとはビジョン、(Vision)つまり長期的な目標を指します。そして、Wはワーク(Work)、一生懸命働くということです。人間として成功するには、ビジョンとワークが必要で、どちらが欠けてもダメだと先生は仰いました。

日本人は、一生懸命働くこと(ワーク)が得意です。夜遅くまで、土日も働く人が大勢います。しかし、いつの間にか目的を見失ってしまい、何のために一生懸命働いているのかわからない状態になってしまうことが多くあります。

当時、自分自身にもそのような自覚があったので、この言葉は心に響きました。

奈良市で学んだ先輩として、後輩の皆さんにはこの言葉を贈りたいと思います。一生懸命学ぶだけではなく、何のために学ぶのか、将来どんなことを実現したいのかを考えて、学生時代を有意義に過ごしてください。応援しています。

京都大学 iPS 細胞研究所長 山中伸弥

(奈良市立青和小学校昭和五十年三月卒業)

教育長の「見る・聞く・語る」

11月19日、済美小学校でタブレット端末を使った公開授業があり、市長・教育委員と一緒に教育長も参観しました。『新南都八景』を選定しよう」と題し、一人一台のタブレット端末を使って自分が残したい奈良の風景をプレゼンテーションする授業でした。授業後、子どもたちにタブレット端末を使うことについてどう感じているか聞いてみました。

【子どもたちの感想】
・発表の道具として、みんなに伝えやすいです。
・わからなかったことがあったら調べられて、とても便利で勉強がしやすいです。
・先生だけでなく、自分やみんなも意見の中に入っています。



教育長の感想

子どもたちは、自分が推薦する奈良の風景を、タブレット端末等を使って上手にアピールしていました。タブレット端末を使い始めて一、二か月でこのように使いこなしていることに驚きました。自分の考えを伝えたり情報を共有したりしながら楽しく意欲的に学ぶ道具として、これらの機器を効果的に活用していくことは、これからの教育に必要です。



児童生徒のみなさんへ

あなたの将来の夢は？

山中教授のメッセージを読んで、どのような感想をもちましたか？

山中教授のグループが世界で初めてiPS細胞を作り出したことにより、これまで分からなかった病気の仕組みの解明や、新しい治療方法の開発が期待されています。

このiPS細胞の研究には、数えきれないくらいの失敗や挫折があったそうです。けれども、「病気で苦しむ人を助ける」という明確な目標をもち、あきらめずに研究を続けてきたからこそ、偉大な成果につながったのです。



山中教授は、ノーベル賞受賞後に、「失敗しないと成功はできない。高く飛ぶためには低くかがむことが必要だ。苦しいときに、もう一歩だけ前に行くことを考えることが大事なのだ。」とも話しています。失敗が次への成功につながることで、成功するための力をしっかりと蓄えること、困難なことであっても、くじけずに乗り越えることの大切さを私たちに教えてくれています。

奈良市で学ばれた先輩を誇りに思い、将来の目標や夢を大きく描き、それに向かってチャレンジしていきましょう。



編集後記：「きらめき☆奈良」の発行も2年目を迎え、第4号をお届けすることができました。目標を持ってがんばる子どもをこれからも学校、家庭、地域それぞれの立場で応援していきましょう。教育委員会のことは、奈良市ホームページをご覧ください。(http://www.city.nara.lg.jp)



おはよう おかえり こんにちは
声かけ 気かけ 笑顔かけ
守ろう、地域の子どもたち
毎月17日は「子ども安全の日」です。

記事に対するご意見やご感想等がございましたら、下記までお知らせください。

奈良市教育委員会事務局 教育総務課

〒630-8580 奈良市二条大路南一丁目1番1号
Tel.0742-34-5297 Fax.0742-34-6917



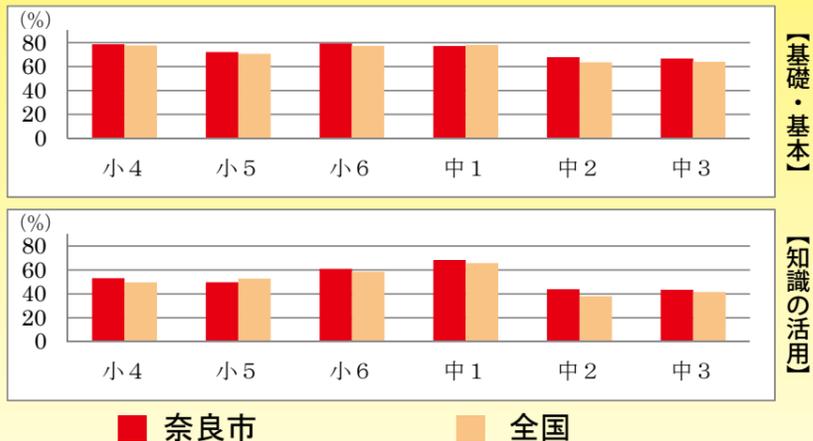
環境にやさしい植物油インキと古紙配合率100%再生紙を使用しています。

学校・家庭・地域で子どもに必要な力を！

未来を思い描きながら、がんばる子どもを応援していきましょー

奈良市と国の学力・学習状況調査より

算数・数学の平均正答率



(調査は、4月24日に実施。中1の調査内容は、小学校の学習内容が対象)

【知識の活用に課題】

奈良市では、国の学力・学習状況調査(小6・中3)に加え、市独自の調査(小4・小5・中1・中2)を実施し、学力や生活の状況を系統的に把握・分析しています。調査結果によると、奈良市の子どもたちの学力は、全国と比較して、どの学年も総じて高いが、一方では、知識を活用したり相手に説明したりする力に課題があることが分かりました。

さらに、平均正答率は全国よりも高いものの、将来を見据えて、自分から進んで学習に取り組んでいくという意識については課題が見られました。

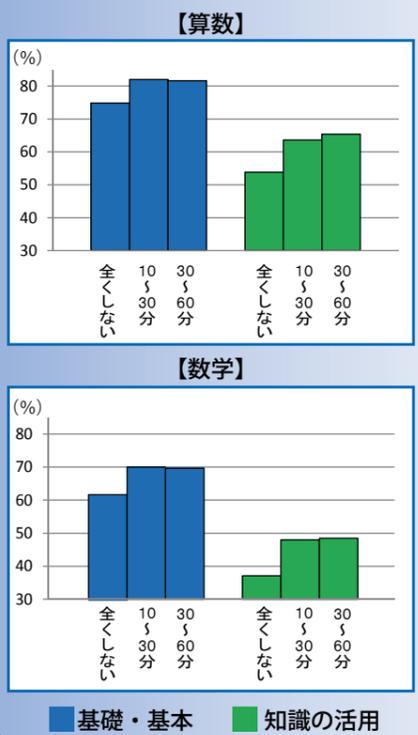
国際的な調査でも、日本の子どもたちの学ぶ意欲の弱さが指摘されています。学習への関心・意欲も学力の重要な要素です。

【読書習慣と学力】

左のグラフは算数・数学の平均正答率と読書時間との関係を表したものです。

普段、家庭や図書館で全く読書をしていない子どもの平均正答率は、読書する子どもに比べ、低い結果となっています。国語においても同様の結果が見られました。

1日の読書時間と平均正答率



さらに、この平均正答率の差は、基礎・基本の問題よりも、知識の活用の問題において、より顕著に表れています。

たとえ短い時間でも読書習慣のあるなが学力に大きく影響していると思われまます。

この調査を今後も実施し、データを蓄積することで、より詳しく学力に關係する要因を探り、みなさんに情報を提供することも、今後の指導に生かしていきたいと考えています。

学校では

ICTや英語を活用しながら、自分の思いや考えを伝える力を育てます

奈良市では、知識の活用や説明する力をつけるために、グループ学習や自分たちで課題を見つけ、解決していく学習を積極的に取り入れた授業を行っています。

そのなかで、子どもたちは、タブレット端末をはじめとするICT機器を効果的に活用し、教室で手軽に多くの情報を手に入れたり、共有するなどして、自分の考えをまとめ発信していく活動に取り組んでいます。

また、これからのグローバル社会では、英語でコミュニケーションをとる機会が今よりずっと多くなってきます。その際に必要になるのが語学力です。文部科学省も今後の小学校英語教育に



※ICTとは、コンピューターやインターネット等の情報通信技術のことです。



ついで、現在の小学5年生より下の学年から実施する方針を打ち出しています。

奈良市では、小学3年生から英語に触れる機会として「ハローイングリッシュ事業」をすでに導入しています。今後も、カリキュラムの見直しを図りながら、英語教育を充実させたいと考えています。

このように、ICTや英語を活用しながら、自分の思いや考えをしっかりと伝えていく力をつけていくことが、変化の激しい社会を生き抜く上で必要だと考えています。

家庭では

読書習慣を身につけ、考える力や集中力を育てます

小さい時から、本を読み聞かせ言葉に親しませることは、本を好きになる子どもを育てるうえでとても大切なことです。

家庭での読み聞かせのほか、親子で図書館に出かけたり、同じ本を読んで感想を言い合ったりして、家庭で読書を楽しむことで、子どもたちにより深く知りたいと思う心や、さらに続けて調べたいという意欲が生まれ、考える力や、集中力が身につく、「豊かな心」が培われます。



地域では

地域の一員としての自覚をもち、将来を思い描く力を育てます

子どもたちは、地域住民をはじめ多くの人とかかわることで、コミュニケーション力、人との関係を作っていく力、自分の将来を思い描き設計する力が身につきます。

そのことにより、自分が社会とつながっていることを実感します。奈良市では、地域で決める学校予算事業や放課後子ども教室などを通して、子どもたちと地域が触れ合う機会を大切にしています。

